日本税理士会連合会会長賞

ふるさと納税で叶った私の夢

沖水中学校　三年　森重　日詩

宮崎県都城市―私の住む町は、昨年、一昨年と「ふるさと納税日本一」に輝いた。しかし、このニュースを聴いた時には、たいして興味ももたなかった。まさかこの税金が、私の夢を叶えてくれるとは。

都城市では昨年度から「中学生海外交流事業」が行われている。都城市内の中学生が、夏休みにオーストラリアを訪問し、ホームステイをしながら、現地の学校で授業体験をしたり、現地の中学生と交流活動をしたりするものである。「ぜひこれに参加したい」という強い気持ちがあったが、この夢が、今年の夏叶うことになった。

一回目の事前研修の時、副市長さんから、

「この事業の予算は、『ふるさと納税』として納められた税金が使われています。」

というお話があった。お話を伺った時にはあまり理解できなかったが、とても興味を持ったので、家に帰ってから、市のホームページで調べてみた。すると、ふるさと納税として納められた税金から、約七百六十五万円ものお金が、この海外交流事業に使われるとあった。また、さらに調べてみると、ふるさと納税は、納税者が使途を指定できる、つまり、ふるさと納税には、納税者の思いが込められているということも分かった。母は、

「都城市からの補助があるから、あなたはオーストラリアを訪問できる。補助がなければオーストラリアには行けなかったよ。」

というような話をしてくれた。私がこの海外交流事業で、オーストラリアを訪問する際にかかる費用のおよそ三分の二は、都城市に、ふるさと納税として納められた税金が使われるとのこと。オーストラリアの訪問に市の税金が使われるということは知っていたが、まさかこんなにたくさんのお金が私たちに使われるなどとは考えもしていなかった。改めて、この事業に参加することの重みを感じ、「絶対に良い体験をしてこよう」と強く思った。

今回、私を含め、都城市内の二十名の中学生と四名の引率の先生方が海外交流事業に参加した。ふるさと納税をしてくださった方々のおかげで、私たちはオーストラリアを訪問でき、様々な体験ができたのだという、感謝の気持ちを大切にしたい。

今年の夏の体験は、とても貴重なものであった。それはオーストラリアを訪問できたことだけではない。税金の大切さを改めて感じることができた体験でもあった。税金を納めてくださった方々に「このような事業に税金が使われて良かった」と思っていただけるよう、体験してきたことを生かして、社会に貢献できる人になりたいと思う。

税金を納めることは、確かに国民の義務ではあるが、社会貢献の一つでもあると私は感じる。私はこれから、胸を張って税金を納めていく。どこかで私と同じような夢を持つ人の願いを叶えるお金だと信じて。

都城北諸県地区納税貯蓄組合連合会　会長賞

税からみえる国のカタチ

沖水中学校　三年　右松　大力

「租税として納めるお金」。これは、ある国語辞典に書かれている「税金」についての記述である。この一文だけで、税金とは何かを理解することは難しい。自分自身も「税金ってどんなものですか。」と問われると、回答に困ってしまう。実際、税金は私たちの生活をどのように支えているのだろうか。

一学期に、学校で「租税教室」が実施された。その中で「アナザーワールド」というＤＶＤを視聴した。もしも税金がなくなったらどんな世の中になるのかということが描写されていた。道路の損壊などトラブルが発生しても修復が行われなかったり、事件や事故、火災が発生した際でも、警察や消防が出動しなかったりという内容であった。もしも税金がなかったら、このような社会になってしまうのかと思うと、税金の必要性や大切さを痛感させられた。

私たちの国の税金は、どのように使われているのだろうか。社会科の授業の中で、少子高齢化を学習した際に配られたプリントの中に、「社会保障関係費」に国の予算が最も使われているというグラフがあった。現在の日本の現状を考えると、まさにその通りだと感じた。けれども私は、北欧のスウェーデンの税金の使われ方にとても驚いた。スウェーデンの消費税はおよそ二十五％。日本の八％と比べると、大きな差がある。スウェーデンはこんなに高い割合の消費税を、どのように使っているのか、たいへん興味をもった。スウェーデンでは、教育は大学まで無料、医療費も二十歳未満は無料、二十歳以上でも年間の自己負担は日本円で一万円ほどしかかからないとのこと。日本では、大学など上級学校に進学しようとすれば、多額の学費がかかる。また、医療に関しても、保険制度は充実してはいるが、高額医療や保険が適応されない大手術等を受けようとすると、多額の費用がかかる。一方スウェーデンでは、経済格差による教育格差や医療格差という問題がほとんどない国であるという印象を受ける。

このように考えると、税金について考えることがたくさんある。

消費税の税率の違いだけを比較したが、日本にはその他にも所得税や法人税、固定資産税といった様々な税がある。その税の一つ一つが、私たちの国、ひいては私たちの生活を支えているのである。このように考えると、税金の問題は国の問題でもあると思う。国会では、消費税の引き上げという議論がなされている。現在の日本が抱える「少子高齢化」という大きな課題を考えると、このような議論にも納得できる。今の私たちにできることは、税の動きから、我が国が抱える問題や課題について考えることであると思う。およそ五年後、私たちは成人をむかえる。真の大人になるために、大人になる前から、税についての理解を深め、社会の動きについても関心を高める必要があるのではないかと思う。

宮崎県租税教育推進中央協議会　銅賞

感謝すべき税金

沖水中学校　三年　下園　凜

少し前までの私の税金への関心は、消費税が８％というくらいで、ほとんど興味を持ったことがありませんでした。深く考えるようになったきっかけは、六月に行われた租税教室です。その教室では、都城税務署の方から税金の種類や、税金がどのように使われているのかを学びました。私が最もおどろいたのは、税金がない世界を舞台にしたアニメにあった、町の様子です。道路や建物がグシャグシャに崩壊し、泥棒などの事件が多発していました。そして、ほとんどの子どもたちが学校に行けない生活を送っていました。思い返すと私たちは、授業料もなく、教科書も税金のおかげで当たり前のように持っています。教科書には、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」とありました。学校に行き、授業を受けられることは、当たり前ではなく、国民の方々が私たちの将来での活躍を期待し、無償で勉強をすることを提供してくださっているということが改めてよく分かりました。このことを肝に命じ、一生懸命勉強に取り組もうと思います。

また、そのアニメでは、あきらかに定年を迎えたお年寄りの方が、仕事を得るため、いくつものお店に面接を受けにいっては断られている場面がありました。私は、強い衝撃を受けました。年を取ったら、のんびりと気ままに暮らすのが当たり前のように思っていたからです。それなのに、税金のない世界では、年を取ってもなお、生活のために働かなければならない様子でした。将来、そんな生活を送ると思うとゾッとします。税金を納めることは、未来の自分が、安心してのんびり暮らすための保険にもなると思いました。そして、全国の高齢者の方々が、安心して毎日を送るために必要不可欠なものだと思いました。そう思うと、税金を納めることが嫌だなあと思う気持ちは一つもなく、逆に、感謝したいと思いました。

他にも、さまざまな場面で税金は必要なものです。道路や町がきれいになれば、犯罪も減り、良いことが連鎖していくと思います。

それは、とても素晴らしいことです。ですが、そんな環境に慣れてしまうと、感謝の気持ちを忘れ、税金を納めることがうっとうしくなってしまいます。そんなときは、税金の使われ方を調べてみるといいと思います。自分の納めた税金が、たくさんのことに役に立ち、必要とされていることに気付くことができるからです。そうすれば、税金を納めることに喜びを感じられるのではないでしょうか。